実践事例
2年
古文

扇の的―「平家物語」から

音読を通して「平家物語」の世界を味わおう

「平家物語」について理解を深め，音読を通して古典の響きを味わう

学習のねらい

- 古典の文章を朗読して，その独特の調子やリズムに慣れ，作品を読み味わう。
- 登場人物の心情を想像しながら読み，描かれたものの見方や考え方に触れる。

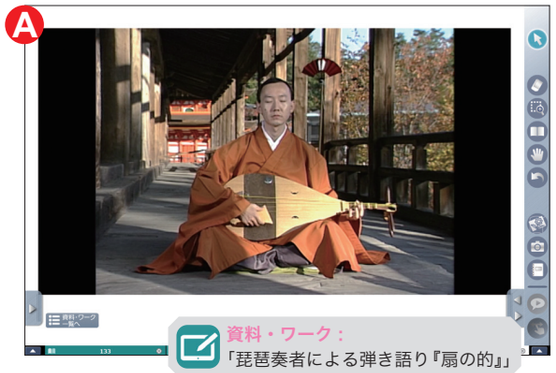
学習の流れ（全5時間）

第1次（1時間）	**「平家物語」の世界と出会う。** ① 教科書を通読し，「平家物語」について知る。Ⓐ Ⓑ ② 歴史的仮名遣いのフラッシュカードに取り組む。Ⓒ ③「平家物語」の冒頭部分を暗唱する。Ⓓ
第2次（2時間）	**「扇の的」の音読を通して登場人物の心情を想像する。** ① 登場人物の関係を整理し，人物の置かれた状況や心情を捉える。Ⓔ ②「扇の的」をすらすら音読できるように練習する。Ⓕ
第3次（2時間）	**「扇の的」をグループで音読する。** ① グループで役割を決め，音読（群読）で表現する。 ② 音読を聞き合う。

「国語デジタル教科書」活用の具体例

第1次①　教科書を通読し，「平家物語」について知る。

Ⓐ



古文の学習では時代背景を捉え，作品の世界をイメージすることが重要となる。最初は教科書を読み進めながら，「琵琶奏者による弾き語り」の動画（Ⓐ）や，「源氏と平家の戦い」の地図（Ⓑ）などを示し，源平の争乱の様子や琵琶法師の存在など，作品に関する大体の知識を確認した。

また，「源平合戦図屏風」の挿絵を見て「扇の的」の場面が描かれている部分はないか投げかけ，その後，動画「源平合戦図屏風」を見せ，作品の世界をイメージ豊かに捉えられるようにした。

Ⓑ

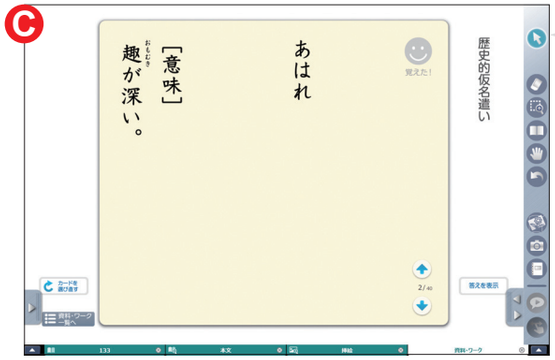
それぞれの戦いをクリックすると，解説が表示される。

生徒の反応　映像や音声で作品世界を感じる

挿絵を拡大して示せるので，甲冑などの細かい部分も詳しく知ることができた。また，琵琶奏者の動画は，教科書の原文を見ながら聴く生徒も見られた。映像や音声のおかげで，具体的に作品の世界を感じ取ることができたようだ。

第1次②③　歴史的仮名遣いについて確認し，冒頭部分を暗唱する。

Ⓒ

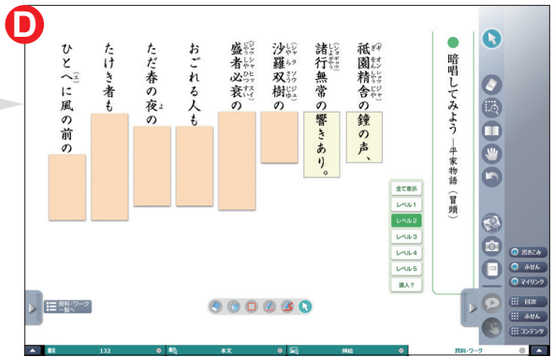


資料・ワーク：
「古典のフラッシュカード（歴史的仮名遣い）」

古文の学習では，原文を何度も音読し，古文の言葉の響きを体感させることが重要である。そこで，歴史的仮名遣いのフラッシュカード（Ⓒ）に取り組んだ。テンポよくカードを提示し，古文の読み方に慣れさせた。そのうえで，「平家物語」の冒頭部分を暗唱する課題に取り組んだ。「暗唱してみよう」（Ⓓ）では，7段階で古文を表示できる。徐々にレベルを上げていき，何度も音読に取り組ませた。

資料・ワーク：
「暗唱してみよう―平家物語（冒頭）」

Ⓓ



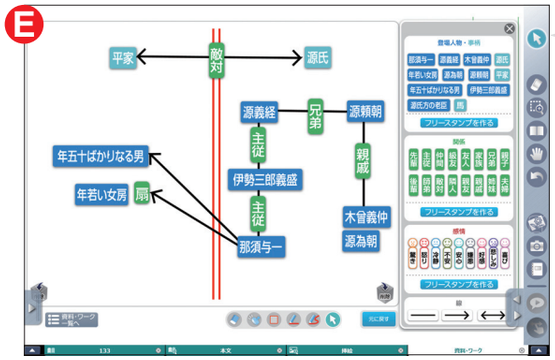
※「音読を楽しもう　平家物語」に収録。

生徒の反応　音読で気づく文体の魅力

「平家物語」は，語りによって伝えられてきた作品なので，音読していて気持ちのよい文体である。生徒たちも何度も音読していく中で，徐々に「平家物語」の文体の魅力に気づいていったようであった。暗唱の課題では，難しいレベルにあえて挑戦するなどの積極性が見られた。細かい意味から入るのではなく，こうして音読で親しむことを重視したのがよかったようだ。

第2次①②　登場人物を整理して状況や心情を捉え，音読を練習する。

Ⓔ



資料・ワーク：
「登場人物の関係を整理しよう」

資料・ワーク：
「原文と現代語訳」

Ⓕ

複雑な登場人物を整理するため，「登場人物の関係を整理しよう」（Ⓔ）を活用した。まず「源氏」と「平家」に分け，そのなかでさらに兄弟や主従関係について意見を出し合い整理していった。

さらに，音読や群読の活動を念頭に置いて，「原文と現代語訳」（Ⓕ）を使って訳や読み方を確かめていった。心情や情景など，どう読めば伝わるのか考えながら読み進め，その後，音読を練習した。

生徒の反応　訳を確かめながら朗読を聴く

「原文と現代語訳」は朗読音声を流しながら原文と訳を確認することができるのでとても便利だった。生徒はプロの朗読に心動かされたようで，自分たちの音読活動に楽しそうに取り組んでいた。

国語デジタル教科書を活用した感想　この教材では映像資料が充実しているので，それらを活用して丁寧な導入ができた。動画，説明資料，暗唱や人物関係を整理するツールなどを活用し，単調になりがちな古文の学習が活発になった。